

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 理念、教育目的が新中期計画と矛盾していないか2010年度中に点検し、矛盾している場合2013年度中に再設定する。	→再検討結果の報告書。	C
2. 理念、教育目的を教員及び学生に対して2010年度中に周知徹底する。	→公表したホームページ。	A→Bに変更

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

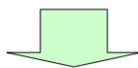
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	<p>(理念・目的)</p> <p>【理工学研究科の理念】 自然科学の基本原則とその応用について先端的研究をおこない、自然科学の発展と人類の進歩に貢献する。</p> <p>【理工学研究科の目的】 1) 数学、物理学、化学、情報科学、生命科学の幅広い分野にわたり、それぞれの分野が有機的に連携しながら、基礎的研究から応用的研究まで、常に最先端のレベルの高い研究を行う。 2) 専攻分野における深い知識と高度な研究能力を身につけるとともに、専攻分野を超えた幅広い知識を修め、広い観点に立って研究を行うことができる高度専門職業人や研究者を育成する。 3) 理工学研究科の教育と研究は社会との繋がりの中にあることを常に意識し、研究成果を学界、教育界、産業界等社会に広く還元していくとともに、企業等で活躍する若手研究者を始めとする社会人学生の受け入れ、さらには国際社会との連携を推し進めるための外国人学生、外国人研究者の受け入れに積極的に取り組んでいく。 4) 特別実験及び演習（前期課程・修士課程）、特別研究（後期課程）を理工学研究科の教育と研究の中心に位置づけ重視する。このなかで、それぞれの分野での最先端の研究に携わり、新しい未知の問題を発見し、それを探求し、解決していく能力とその成果を社会に活かしていく応用的能力を養う。</p> <p>(現状説明) 教員に求める資質や能力に関しては、理工学部の申し合わせ事項の募集、採用、昇格の条件に明記してある。教員構成については、毎年資料を作成して、学部長室委員会および研究科委員会にて配布している。さらに、学部長室委員会の下に様々な委員会を設け、教員の組織的な連携および責任体制を明確化している。また、文部科学省平成22年度の「女性研究者支援システム改革プログラム」に採択され、女性研究者支援についても充実しつつある。</p>
☆ 小項目0.0.2	<p>(現状説明) 理念、教育目的について、既にホームページで公開している。さらに研究科委員会で教員に周知し、学生に対しても入学時に周知徹底している。</p>
☆ 小項目0.0.3	<p>(現状説明) 大学・研究科の理念・目的の適切性について、学部長室委員会及び研究科委員会において定期的に検証している。</p>
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	



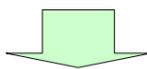
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	社会との繋がりを強化するため、理系を拡張し応用分野の更なる充実を図る。
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	学生増も視野に入れた理系分野の拡張を検討する。
小項目0.0.2	
★ 小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○研究科の理念・目的の点検や教員、学生への周知が着実に進められています。

【学内委員】

○理工学研究科の理念・目的を記載しているHPの更新日付は2006年9月11日となっており、数理科学専攻の紹介がありません。その点を鑑みると、理念、教育目的の周知徹底に対する進捗評価は「A」で正しいのでしょうか。

○理念・目的に関しては、新中期計画と矛盾していないかを検証し、2013年度の再設定に向けて順調に進展しています。ただ、小項目0.0.1の現状説明は教員の資質能力や教育組織に関する記述で内容にあっておらず、修正することが求められます。また、理念・目的の公表については、既にHP上でなされており評価できますが、最終的な目標は2013年度での再設定ですので、進捗評価はBが妥当だと思われます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 0.1 (現状説明)	ホームページは2010年度に更新する予定であり、そこで数理科学専攻を紹介する。
--------------	---

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
